

四日市版コミュニティスクール報告書（ 令和 2 年度 総括 ）

四日市市立水沢小学校

校長 荻田 弘樹

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

きらら推進委員会では、「水沢の郷土を愛し、心身ともに調和のとれた子の育成～学校を核とした地域力の向上とともに～」を活動目標に設定し、児童の教育については20年後、30年後に水沢地区を支える人材として「調和のとれた人間性」「地域を理解し、地域を愛する子」「地域や地域の人々とつながり合える子」の育成をめざしています。また、「学校を核としてつながり合える地域社会づくり」「世代間の交流が高まる地域社会づくり」をめざした活動になることをねらいとして、地域との連携を図っています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について**(1) 教育活動の実践事例**

本年度も、「地域を学ぶ」「地域に学ぶ」「地域と学ぶ」をキーワードに、水沢地域の自然、文化、歴史、産業などを学び、学習の充実を図ることができるように計画を立てました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を縮小しなければならない状況となりました。そのような中でも、地域の様々な方々の協力のもと、感染拡大防止を十分とり、活動内容を工夫して、取り組みをすすめました。その結果、子どもたちはどの活動にも真剣に取り組む様子が見られました。

① お茶を中心とした取組

お茶づくりを中心とする地場産業の振興は、地域の人々の大きな願いの一つです。そのため、本校では、例年5月初旬に学校が所有する学校茶園でお茶摘み体験をおこなっています。本年度は、新型コロナウイルス感染症のためお茶摘み体験は中止しましたが、学校茶園の維持管理をお願いしている地域のお茶農家の方々によって収穫された良質なお茶を題材に拡大防止対策を十分とり、6年生を中心とした次の活動を実施しました。



三重茶農業協同組合やJA、お茶農家の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、水沢のお茶の歴史や効力を学んだり、おいしいお茶の入れ方を体験したりしました。また、かぶせ茶や番茶、ほうじ茶などをあてる「きき茶」体験をすることもでき、地場産業である水沢茶の魅力に触れるよい機会となりました。

② 安心安全の取組

例年、コミュニティスクール推進委員会と地域が共催して、地域の防災について考える活動を実施しています。水沢地区連合防災会「ガーベラグループ」の方々を

ゲストティーチャーとしてお招きし、5・6年生が体験的に防災について学んでいます。

本年度は、地域コーディネーターの方をゲストティーチャーとしてお招きし、防災教室を実施しました。町内にある防災倉庫に備蓄されているものについて教



えていただいたり、「自助・共助・公助」の大切さについて考えたりしました。特に、備蓄食料であるアルファ米は、とても便利なものであり、災害時にはなくてはならないものであることを知りました。

11月13日（金）・14日（土）におこなわれた自然教室では、防災教室で学んだことをもとにし、非常食であるアルファ米とレトルトカレーを調理して、改めて防災について考えました。子どもたちは、とても楽しそうに活動していました。

また、さらら全員協議会を中心とした交通安全・あいさつ運動キャンペーンをはじめ、保護者による下校パトロール、地域の「みまもる会（見守りボランティア）」の方々による登下校の見守りや青パトによる見守りなど、児童の安全を地域全体で見守っていただいています。

③ 地域ぐるみで進める人づくり



例年、秋には水沢地区社協と共同開催で、地区文化祭が本校にておこなわれていますが、公開授業のみを実施しました。

1～3年生は、地域のスポーツ推進委員さんをゲストティーチャーとしてお招きし、パラリンピックの種目にもなっている「ボッチャ」を体験しました。子どもたちは、楽しく真剣に取り組んでいました。また、障がい者スポーツについて、より多くの方に知っていただくよい機会となりました。

また、4～6年生は、音楽発表をおこないました。マスク着用での発表でしたが、子どもたちの歌声はすばらしく、たくさんの方々に感動の声をいただきました。

④ 花いっぱい運動

11月30日、水沢地区の「花いっぱい運動」をおこないました。4年生が水沢地区社協の方々からのご指導をうけ、プランターにパンジーやビオラの苗を植えました。たくさんのお花が飾られ、学校が明るくなりました。



⑤ 地域理解を推進する取組

毎年5年生は、地域の米づくり農家の方にお世話になり、足見田神社の東側の田んぼを借りて米作りをおこなっています。子どもたちは、5月初旬の田植えはおこなうことができませんでしたが、9月下旬の稲刈りは、おこなうことができました。また、脱穀をしたあとに残る藁で縄づくりなども体験することをしました。



1・3年生は、白寿会（老人会）のご厚意で、昔遊びの活動に取り組むことができました。例年、白寿会の方々に昔の生活や子どものころの遊びなどについて話を聞く時間を設定していますが、交流の場をもつことができなかつたことが残念でした。

（2）コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- ① 本校は、平成22年度から「四日市版コミュニティスクール」として指定され、保護者や地域が主体的に参画する「地域とともにある学校」の推進への取り組みを11年間継続してきました。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が随分と縮小される状況となりましたが、地域の様々な方々のご協力を得て、活動を進めることができました。
- ② 地域と連携した防災関連事業、交通安全（あいさつ）運動、ボランティア活動、あるいは体験活動を中心とした教育実践やお茶の学習の取り組みにおいて、コミュニティスクール推進委員会が人的・物的両面で地域・学校間の重要なパイプ役を果たしていただき、柔軟な活動につながりました。
- ③ コミュニティスクール推進委員会と地域が共催することで、様々な活動や交流会を実現することができました。子どもたちが郷土や水沢に親しみや誇りをもち、水沢の人や自然、文化、産業などを見つめ直し、地域の方々とともに考える機会となりました。

3 今後に向けて

本校の学校教育ビジョンのコミュニティスクール目標でもある「地域を学ぶ」「地域に学ぶ」「地域と学ぶ」をキーワードに、水沢地域の自然、文化、歴史、産業などを学ぶ学習の充実を図ってきました。また、コミュニティスクールとしての活動も、今年は11年目を迎えました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、コミュニティスクールと連携した行事が縮小されました。一方で、地域との繋がりを今後一層大切にする必要があることを改めて感じた一年でもありました。そのため、活動を「水沢地域」に焦点化し、学校と地域との願いや役割を確認し、各活動を教育活動に適切に位置づけて、持続可能な活動となるように学校行事及びコミュニティ行事の再構築に取り組む必要があります。

今後も、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、地域社会全体での教育の実現をめざすことを目的とし、水沢を深く理解し、愛する子どもたちの育成をめざし、取り組みを推進していきたいと思ひます。

別紙B

令和2年度 四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立 水 沢 小学校

委員長 森 哲 也

校 長 荻 田 弘 樹

月	協議会の開催	活 動 内 容
4	第1回 きらら推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、運営方針、事業計画について ・活動の方向性、全員協議会開催について ・「田植え」(教員)
5		
6		
7	第2回 きらら推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の活動の見直しについて
8		
9	第3回 きらら推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「(水出し茶に代わる) 水の提供」 <ul style="list-style-type: none"> ・・運動会練習の水分補給 ・「学校公開」・・きらら委員参観
10		<ul style="list-style-type: none"> ・「運動会」・・きらら委員参観 (合同開催できず)
11		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校公開」・・ボッチャ (1～3年生) ・交通安全あいさつ運動キャンペーン② ・「防災教室」(5年生) ・「花いっぱい運動」(4年生)
12	・第4回 きらら推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけ足記録会」 ・水沢マラソン大会【地区行事参加】
1		<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全あいさつ運動キャンペーン③ ・白寿会提供による昔遊び (1・3年生)
2		<ul style="list-style-type: none"> ・「6年生を送る会」・・きらら委員参観
3	・第5回 きらら推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の反省と評価 ・次年度の活動について